

国語科	科目 現代の国語	(必修)	授業時数 2 単位
			履修学年 1 学年

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。
-----	---

●学習内容

1 学期	2 2 時間	2 学期	3 6 時間	3 学期	1 2 時間
第 1 章 書き手の意図をつかむ 目指す世界の地図を作る(鴻上尚史)	10	第 3 章 コミュニケーションについて学ぶ 世間話はなぜするか(松井智子)	12	第 6 章 根拠を読み取る 「差」という情報(佐藤雅彦)	12
第 2 章 対比関係を読み取る 里山物語(日高敏隆)	12	第 4 章 言葉の働きをとらえる コインは円形か(佐藤信夫)	12	『わらしべ長者』の経済学(梶井厚志)	
		第 5 章 書き手の考えを比較する 科学と非科学(中屋敷均)	12		

教材	授業の進め方
教科書:「新編 現代の国語」数研出版 「新編 現代の国語 準拠ワーク」数研出版	国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指して、言葉による見方・考え方を働かせて様々な言語活動を行う。 具体的には、教科書で扱う様々な教材をもとに、文章読解やレポート作成などの「読む」「書く」活動や、グループでの話し合いなどの「話す」「聞く」活動を行っている。また、定期考査を通して定着度を測る。

●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点		知識・技能（技術）	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる （できる）	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。
	習得する （わかる）	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法		・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容 ・グループフォーム上の課題の取り組み,または課題の提出状況

単元別 評価規準

第1章 書き手の意図をつかむ

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	筆者の意図や表現上の工夫を粘り強く読み取り、学習課題に沿って適切に説明することができる。
	習得する (わかる)	文章の効果的な組立て方や接続の仕方がわかる。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて、要旨や要点を把握している。	筆者の意図や表現上の工夫を粘り強く読み取り、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。

第2章 対比関係を読み取る

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	比喩、例示、言い換えなどの修辭や、直接的な述べ方、婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。	文章の論理展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。	筆者の主張を粘り強く読み解き自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめることができる。
	習得する (わかる)	比喩、例示、言い換えなどの修辭や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方がわかる。	文章の論理展開などについて、要旨や要点を把握している。	筆者の主張を粘り強く読み解き、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。

第3章 コミュニケーションについて学ぶ

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。	文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、自分の考えを深めることができる。	コミュニケーションの価値について理解を深めることができる。
	習得する (わかる)	個別の情報と一般化された情報との関係がわかる。	文章に含まれている情報を相互に関係付けながら、自分の考えを深めようとしている。	コミュニケーションの価値について理解を深めようとしている。

第4章 言葉の働きをとらえる

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解することができる。	自分の考えや見方について相手にわかりやすく説明することができる。	筆者の意見を参考にしながら自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加することができる。
	習得する (わかる)	言葉には、認識や思考を支える働きがあることがわかる。	自分の考えや見方について相手にわかりやすく説明しようとしている。	筆者の意見を参考にしながら自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。

第5章 書き手の考えを比較する

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。	身近なものを例にとり、筆者の主張をわかりやすく他者に説明することができる。	筆者の意見を理解し、学習課題に沿って自分の考えを説明することができる。
	習得する (わかる)	主張と論拠など情報と情報との関係がわかる。	身近なものを例にとり、筆者の主張をわかりやすく他者に説明しようとしている。	筆者の意見を理解し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。

第6章 言葉の働きをとらえる

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	主張と論拠など情報と情報との関係について理解することができる。	内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めることができる。	文章から筆者の主張を読み取り、その主張に対する自分の考えをまとめ、表現を工夫して説明することができる。
	習得する (わかる)	主張と論拠など情報と情報との関係がわかる。	内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めようとしている。	文章から筆者の主張を読み取り、その主張に対する自分の考えをまとめ、表現を工夫して説明しようとしている。